

## 研究主題

「心豊かに、生きる力をはぐくむ教育の研究」  
～集団を高めるための、個の育成を目指して～

## 主題設定の理由

国の政策、県の政策を受け、地域に根差した教育を進めていくための甲州市の取り組み（平成23年10月に「甲州市『確かな学力』育成プロジェクト委員会」が発足）も8年目となる。4月9日の説明会において、今年度は第4次プロジェクトの2年目の位置づけであり、昨年度からの取り組みを定着させることを重点に置くことが確認された。

市のプロジェクトを視点としながら本校の現状を見てみると、プロジェクトの基盤となる「集団づくり」という点では、あいさつや生徒相互の支えあい（けが人などへの支援や当番活動の手伝い）などにおいて、さわやかな学校生活を送っている様子がうかがえる。またQUにおいても満足度群の割合が全国平均を上回っていることから、落ち着いた学校であると客観的に見ることもできる。

別の視点として不登校生徒の様子を見てみると、一昨年から昨年にかけて増加傾向にある。また学力面においては、二極化の傾向が表れはじめている。

以上のことを踏まえ、今年度は「集団作り」というこれまでの方針を受け継ぎつつ、集団を構成する生徒個々の力を少しずつ向上させるための研究を進めていくこととする。

## 研究の柱として

- ・生徒理解（市プロジェクトの「集団づくり」とリンクして）
- ・授業と家庭学習の連携（市プロジェクトの「授業づくり」や「保護者との連携」とリンクして）
- ・学習指導要領の実践（市のプロジェクトの「授業改善」とリンクして）

## 具体的内容と方法

### （1）意欲的に学ぶ集団作りについて（継続実施することにより生徒を育てる活動として）

①QU アンケートを用いて、生徒の実態を把握する。

※ 4/9市研究主任会にて 甲州市の学校は満足度群が多い。今年度も多いようであれば、集団から外れている特定の生徒に関して焦点を当て対策し、記録していく。

②SST やSGE を用いた人間関係作りを進める。

### （2）授業づくりおよび授業改善（学力向上に関わる取り組みとして）

①授業の構造化を主とし、板書計画や指導案作り、また QU 結果を取り入れた授業の検討・実践を積み重ねていく。

②一人一実践（ステップアップ授業）で検証するとともに、実践記録を残す。

③SUN の活用を検討する。

### （3）研究授業の実施（指導力の向上を目指して）

①ESDに関する学習および研究授業

※ 今後取り組まなくてはならないEDSについての基本的な学習と共通理解を深めていく。

②道徳の実践および資料の構築

年間指導計画（予定）

☆「スタンバイ」の時間の新設…清掃後、学級活動（帰りの会）の前の5分間でSUNの取組をする。

月	日	分類	内容	
4	4	校内①	継続研究の確認	
	9	市プロ	市プロジェクトの説明	
	17	校内②	研究主題および研究内容の	
	24	市	QU実施	
5	8	教協	①春季教研（本校）	
	13	校内③	全体 K13 法での QU 分析 市指定	
	20	校内④	教科別 NRT の分析と指導法確認	
	22	教協	②	
	29	校内⑤	グルグル① 全体「道徳の評価について、指導案検討」	
6	12	教協	③	
	14	校内⑥	研究授業 道徳に関して ※指導主事招聘	
	13	校内	学びの集会	
	19	市	教育講演会 齊藤勝先生	
	20	校内⑦	グルグル② 全体「SUN・家庭学習・家庭との連携」	
	5	市	教育講演会 玉井邦夫先生	
7	10	校内⑧	学年別「生徒理解」	
	7	教協	教育講演会 ブロック交流①	
8	9	教協	④	
	21	校内⑨	全体学習会「ESD関連予定」→教科別「教育課程還流報告」	
	28	教協	⑤ 統一授業研	
	11	校内	共同絵画	
9	18	教協	⑥ 秋季教研（本校）	
	9	市	QU実施	
10	11	市	学習会 盛山隆雄先生	
	23	校内⑩	グルグル③ 全体「ESDに関する学習会」	
	6	教協	ブロック交流②	
11	13	校内⑪	学年別 市指定 QU 分析	
	27	教協	⑦	
	4	校内⑫	研究授業 ESD に関して ※指導主事招聘	
12	6	市	教育講演会 河村茂雄先生	
	15	教協	⑧	
1	22	市	教育講演会 竹下和夫先生	
	29	校内⑬	グルグル④ 教科および学年「検査等の分析・資料作り」	
	5	教協	⑨ 統一授業研	
2	12	教協	⑩ 冬季教研（本校）	
	19	教協	ブロック交流③ 3 送回を見てもらう？（協議なし）	
	26	校内⑭	全体「まとめと来年度の方向性確認」	